平新報

發行日毎月三回五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號一二字詰 一行一回五十錢 場所指定倍增
送料共定價一部金十錢

橫手は宇都宮釣天井で名ある本多忠純蟄居の地

秋田縣橫手中學校　高木稻水

山野邊兄

私がこの土地に腰を下してからもう二ヶ月あまりになります、轉任前後のあはただしい氣持も落着いて、私は今靜かに自分の周圍を見渡し、自分の過去を考へてをります、そして何か書きたいやうな衝動に驅られてゐます、しかしどれもこれも中途半端なものばかりで何一つまとまつたものが出來上りません。

山野邊兄

富山在任中はどこを步いても誰一人知つてゐる人に出合ひませんでしたが、この土地に來てから時々意外の人に出遇ひます、これだけ鄕里に近いわけなのでせう九月上旬有名な三十六間の蛇の崎橋を步いてゐますと向ふから自轉車を飛ばして三十前後の洋服男がやつて來ました、どこかで見たやうな男だとは思ひましたが思ひ出せません、この町には私の舊知は誰一人ゐない筈だ知らない人なのだらうと思つて通りすぎようとすると私の後で自轉車から下りて『やあ！』と申しました振向いてよくよく見ると、磐中卒業の箱崎君でした、十年近くもあはないのだからお互にかなり樣子がかはつてゐる筈です、稅務署につとめてゐるのです。或晚子供を連れて散步に出掛けました、歸りに少し用事があつて郵便局に立寄りました、歸ろうとすると若い事務員が近寄つて來て『先生！』といふのです、はて橫中の生徒が夜分局にでも出てゐるのかしらと思つてじろじろと顏を見てゐますと『私米澤中學にゐた×です』といふのです、敎師として意外な場所で敎へ子から先生と呼ばれるくらゐ嬉しいことはありません、なだらかな山の傾斜、澄んだ空、東北に生れた私は矢張かうした東北の風光にたまらないなつかしみをおぼゑます、納豆の食べられるのも愉快であれば言葉もしたしみがあります、しとすちとつの發音は隨分間違ひます、語尾にこをつけるのも特徵です錢こ、紙こ、衛（ゑ）こ、納豆こといふやうな具合です。

山野邊兄

講談の宇都宮釣天井で名高い本多上野介忠純はこの土地に蟄居してゐたのです、その邸跡は上野臺（かうずけだい）として地名になつて殘つてゐます、上野介忠純が何故に幕府から罪を得たかに就いては滯翰譜にも明瞭には書いてありません、しかし將軍を暗殺しようとしたといふことが噓だといふことは確實です、恐らくは彼があまりに父正信と共に執政として勢力を振つたがために嫉まれた結果だらうといふのが定說です、兎に角大阪役、日光廟、遺產分配等に多大の功のあつた彼が一朝罪を得て孤影悄然としてわびしい月日をこの橫手に送つたことを考へると小說的の興趣の湧くのをおぼえるのです七十三歲で寂しく死ぬまで十年あまりをはるかに鳥海山が白くなり、靑くなるのを眺めながら彼はどんなことを思つたでせう、父の面影、將軍や諸大名の姿、江戶や駿府のなつかしい思ひ出、彼の胸中にはそれらが往來してゐたことでせう。

山野邊兄

平新報を見るたびに親友のおもかげを連想して嬉しく思ひます、前號の須藤先生のおたよりなどもおもしろくなつかしく拜見しましたあまり長くなりますからこの邊でペンをおきます。

磐中動靜（十）

磐中出身九博士

今回亦荻野朝一氏が醫學博士の學位を得たので磐中出身に九博士を得たのである何れも醫學である出身地勤務地左の如し

卒業回數	氏名	出身地	現勤務地
第一回	佐波古直明	湯本町	九州小倉病院
三回	八木澤文吾	湯本町	愛知醫大敎授
四回	赤津誠內	錦村	牛込區開業
五回	矢吹清	夏井村	山形至誠堂病院
六回	齋藤豐	平研町	病死
十二回	酒井菊雄	草野村	東京市衛生技師
十二回	金子甚藏	平田町	大連病院
十三回	矢吹一男	夏井村	和歌浦病院
十四回	荻野朝一	下小川	長野赤十字病院

海軍移動中磐中出身

十一月十五日附

補安宅艦長　嵯峨艦長海軍中佐　鈴木幸三（五回）
補鳳翔分隊長　霞ヶ浦航空隊付海軍大尉　菊地朝三（十四回）
命加古乘組　第廿四潜水隊付海軍少尉　新田目直壽（廿二回）

十月一日附

任海軍少尉命水雷學校學生　長門乘組海軍少尉候補生　小野四郎（廿四回）
任海軍少尉命水雷學校學生　加古乘組海軍少尉候補生　大和田寬（廿四回）

工費三萬余圓で改修される藤原川

玉川地方洪水の脅威は全くなくなるか

石城地方炭山の開鑿に連れ山林の濫伐のため水源地が荒廢され地方農村の疲害は甚大のものである、何が疲害といふに水害である、一寸とした降雨に洪水となり炭礦の開けざりし舊幕時代は裕福村として知られた村も今は貧乏村となつて居るうち殊に甚しいのは藤原川の汎濫でその關係村の**玉川村**である、かくの如きで關係村から幾度か改修の陳情をなしたる勞むなしからず、本年度に工費三萬余圓を以て玉川村地內の川幅せまく迂余典折してゐる河身五百四十間を改修する事となり

川幅平水時八十五尺堤防と堤防との兩岸口幅百二十五尺とし玉川村大字野田字入海地內から字上手綱地內まで川幅を取擴ぐべく一切の設計成りこれがため潰れ地となる原野田畑等二町五反八畝はそれぞれ受益者である關係村で買收費を寄附土地所有者六十余名に交涉中であつたが全部の承諾を取纏め得たといふ、よつて近く農閑期に入るを待つて川幅取擴げ開鑿の工事は地元部落に請負はせ起工する事になつた改修後における堤防の高さは十五尺五寸となり去る大正十一年最大出水面よりなほ五尺高く同地方における洪水の脅威は全く取除かれるであらうか。

故渡邊武四郎君　二八會友

大正九年舊正月筆者が朝鮮に向ふ時來るべき活躍を約して別れた、大正十四年四月歸省した折は旣に故人となつて居つた、その間君は亡父の名を襲名し武雄が武四郎となり玉川靑年團長となり小名濱に渡邊商事株式會社を起し社長となり、磐越銀行の重役、又は常磐工業の株主として財界に乘り出して居つた仕事はこれからといふ時に際し病患に犯され終に二十七歲、大正十四年一月五日不歸の客となつたのである、才子不遇とか財と智德兼備して居つたが体根の優者ではなかつたのである等しく玉川村として學友として惜む事切なるものがある嗚呼『一言眞立追悼す』

小野庄助翁永眠

田人村素封家常磐工業株式會社專務小野庄一氏祖父庄助翁は去る十六日永眠十九日葬送

話耳目

◆小名濱港修築問題につき本郡選出縣議政、民兩派呉越同舟一丸となつてそれが達成に當る事となつたとか地方開發のためには政派を問はずかくなるのが當然の程當然である筈である、議員は民衆の議員であつて一政黨の議員ではない、議員にして個人の利益感情のために左右する如きあらば公人にあらずして憎みても余りある彼等立候補の際口約を自ら破るを裏書する背任行爲者にして吾人の最も排すべき事であらねばならぬ◆河を治せんとせば先づ山を治せと然り洪水の豫防をなさんとせば山を繁らすべきである、玉川村附近の藤原川如何に改修するとも湯の嶽が禿山であつては駄目だ、河川改修にて多少豫防出來得るとしても灌漑水の水源地が涸渇しては何にもならぬ當局は今少し植林に補助さして事を未然に防ぐべし、兎に角石城農村は炭礦の被害は大したもの炭山の利益は一二の資本家に過ぎない事になる

新川柳

郊外、晴　社中選

集句が尠かつたので選者へ御苦勞を掛ける事を遠慮して社中で拜見して頂いた句を並べて見ました振つて御投吟御援助をお待ち致します

郊外の秋が淋しい枯れた萩　池上富水
畑中に二人繪になる立ばなし　佐々木あきら
晴れやかな唱歌がもれる幼稚園
楓今猪口にうつして歌莚　星野茶柱
赤トンボ飛んで夕燒子等騷ぐ
丸髷と晴着で別な人になり　松崎花笑
祝賀會皆晴かな面で來る
郊外を珍らしく見る二階借
秋晴れを胸一パイピクニック　佐川有頂天
落葉の林明るく通る汽車
郊外へ來て秋らしい秋を知り
郊外の住居羨む秋の色
新聞へ二人で並ぶ晴れ姿　綿引東天紅
郊外へ散步カフエーの飯を食い
郊外の風情眞つ赤な澁い柿

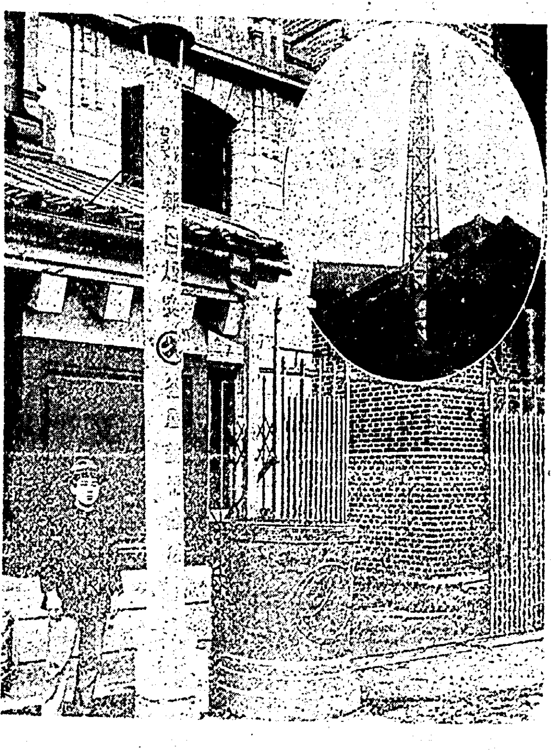
大野小學校に石門建立

大野村第一小學校に同村々會議員會田喜一氏外數名有志が協力一致して約七百圓の費用を投じ石門を建設したと

川柳募集

新課題
お參り
風音
各題五句吐
〆切十一月卅日限り
雜吟投稿歡迎 一人十句
屆所 平一丁目 綿引東天紅宛

朝日煙突



御存知でせうか？
サビナイ
ヤケナイ
クサラナイ
石綿セメント製
耐水!!! 耐火!!! 美麗!!! 廉價!!!
㊅ 釜屋商店
平町五丁目
電話九番

平和削節製造發賣元
海陸物產問屋
常磐線湯本驛前（磐城屋號）
鈴木道太郎商店
（振替東京六二二〇一番）
◉最上の鷄餌（魚粉）

良品廉賣の代表的店に
買いよい店
亀 中野呉服店
電話六十七番
平町三丁目
何時も祝儀祝ひもの其他珍柄は豊富に揃ひてあります

謹告

謹啓晚秋之候各位益々御淸榮之段奉慶賀候陳者永年各位の多大なる御配慮に預候弊店田町油槽所を今般常磐線關本驛前弊店油槽所に擴張移轉致事に相成候に付放油は勿論油類一切貯藏致さざる事に相成候
右謹告旁々永年の御庇護に對し厚く御禮申上候
昭和二年十一月
平町二丁目
淸關內油店
關內正一
平町各位

磐城 湯本 溫泉旅館
松柏館
電話五番

平町南町
[illegible]醫院
電話一二九番

平町田町
高久病院
電話五一三番

內科、小兒科、皮膚科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

植田町
本町
森合歯科醫院
[illegible]

肺結核、肺尖加答兒、肋膜炎の優秀藥が始めて出來ました。
特效新藥 スーパー錠
十一日分七圓
卅三日分廿圓
幾多の實驗者が立證せる効果は……
一、熱は日に增し下る 一、咳嗽及痰がなくなるか又は少くなる 一、盜汗が全くなくなるか又は少くなる 一、食慾が增進する 一、倦怠がなくなる 一、呼吸困難が樂になる 一、安眠が出來る 一、肋膜炎は水が除れる
縣下代理店
平町五丁目角 山野邊藥局

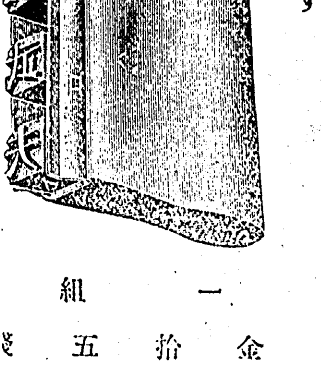
寒さ迫る

暖かい防寒具が
各種豊富に揃ひました
オーバ 六・七圓ヨリ
トンビ 十一・二圓ヨリ
大人マント 七圓五十錢ヨリ
其外
婦人コート・婦人マント
モヂリ外套
學生外套
全部荷揃
おかや洋服店
磐城平貳（電二〇三）

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二丁目
電話長三番

姓名用
邦人
ゴム活字
發賣
本品は學生諸君を主とし姓名を組み込み即座に販賣する新調のゴム活字です
各學校學生諸君……ミナサンのナマヘをスグにクミタテてアゲマス
『良く安く直ぐ出來る活字式ゴム印』の御利用を御薦め致します

姓名〔五字迄〕及活字挾ミ共
一組 金五拾錢



現品は店頭ニアリマス
特約販賣店
淸仙堂
綿引秀親印房
平町一丁目二〇
電話四五二番（呼）

死活の岐路に立つ湯本町
地下試掘問題
それが經緯と注目さるゝ行政訴訟

溫泉町と知られて居つた湯本町は地方炭礦の開山と共に徐々おびやかされて數年前終に湯道を絶たれ溫泉としての生命はなくなつたが辛じて機械の力に依りて現在の如き復活せる溫泉となり居るのであるが昔の湧出せる溫泉ではなく同町としては炭山によりて多少恩惠をうけたらんも溫湯泉を以つて生命とした町として大なる致命傷をあたへられたる事は如實に物語つて居るのである、目下問題となり居る同町地下試掘でるが、同町地下は既に掘られつゝありとせられ各所殊に、鐵道線路下の如き然りで同線が、ゆがみたる實例もあつた、尙ほ是れ以上掘らるゝに至つては同町存亡？危險に至る重大なる問題にて同町民有志が擧つて該問題訴訟の結果に血眼になるも無理ならぬ事である、今此處にそれが經緯を記述して見るが如何に利益のためとは申せ民衆の安寧を度外視しつゝある一部事業家『入山採炭側』の處置であるかゞ推測し得て余りあるものである

去る九日東京行政裁判所に於て公判開廷されたるは元入山採炭湯本礦業所長吉本眞一氏が仙臺礦山監督局を相手取り『湯本町地下十三萬余坪の試掘不許可』を不當として行政訴訟を提起したるによる公判にして地元たる湯本町にては町の浮沈に關する大事なるにも不拘去る九日の第五回公判迄は殆んど町民全体としては知らざるもの、如く、公判傍聽したるのみにて最近に至り原、被兩告並に評定官の實地檢證後始めて問題となりたるものにして事件は大正十三年中吉本眞一氏が入山採炭湯本礦業所長時代に湯本町及同町北部の隣接地二萬余坪の地下は石炭の埋藏量豐富にして炭質よき爲入山採炭にて試掘願を提出したるより湯本町にては溫泉涸渇の虞ありとして反對し遂に許可されず同町北部山間は保護區域となり今後入山採炭にては湯本町地下及保護區域は採掘せざる十三ヶ條の契約をなしたるに其後吉本氏は所長の公職にありながら個人名義にて同礦區（保護區域及び湯本三函）十三萬余坪の試掘願を出し礦山監督局にては湯本町民の將來を慮り許可せざるを以てそれを不當とし去る大正十四年春吉本氏は礦山監督局を相手に行政訴訟を起し今日に及んだので湯本町長の所置に不安を感じたる町民は町全体の死活問題なるより有志二十余名は第五回公判の傍聽に自費を以て上京し、比佐榮一並に比佐賢司の兩氏は町民を代表して公判に自由參加し原告の申出でに反對し各評定官にも現在全町の死活の岐路にある旨俱陳したと

平郵便局移轉地
買賣値の懸引行惱み
近々決定を見るであらう

平郵便局の移轉問題は年來の問題であつてそれが移轉先敷地について未だに買收のため決定せぬ様であるが三丁目角の平銀行、なかや洋服店永山小平氏、金太郎オモチヤ、釜屋、丸又諸氏の所有地一角地價高價にしてものにならず、南町の芹澤家一角、田町堀江氏所有一角も話にならず結局四丁目ト印魚店より中川岸に至る一角を買收すべく本省は内定し居るもの、如くでそれが賣買格について交渉中のもの、如くである、郵便局は他官廳と異り停車場近くの必要あり町勢の發展上南町新開地等の說ありしも右の見地より四丁目となりたるもの、如くである四丁目としては電話架設から申すと西に七分ありとかであるが交換局は分置しても差し支ないとの事であつて要は四丁目の土地持主連が各々分離異つた値にて賣らんとして居るも本省としては一括して一樣値にて買ひ上ぐるべくそれが價格相違にて未決定の由であるも近々纏るべしと

平第三小學校增設
經費の關係上結局
二階建に落着か

平小學校は兒童の激增につき目下の校舍にては收容し切れずそれが增築については急務となつて居り、かつて三萬圓を計上して現校舍を二階建となすべく略決定し居るも平東部の町民は此の際故息なる增築をなさず第三小學校として新川南部古川附近約三萬町歩を買收して一萬坪を校地となし、二萬坪を運動場か小公園となすが平將來發展上當を得たるものとしてそれが理想實現に向つて運動をなす聲擴頭し來れるも何より金錢問題で、理想としては運動競技等の流行し來り又平小鐵道の開通！人口の累增の折は當然小公園の必要あり右は理想なるも當分は金の問題で二階建增築に落合ふであらうと言はれて居る。

衛生クラフの懸賞
金時計一等に當選
二丁目の山崎修三さん

平町關內藥局で廣告宣傳をなして居る衛生グラフの第拾回懸賞發表に平町二丁目山崎區長息修三さんがそれが正解スマイルとして一等に當選金側腕時計一個が當つたと。

平署管下組頭會と
平の火災豫防宣傳

平警察署管内消防組頭會議を去る二十日平署樓上にて開催され平町内火防組合幹部等も加はりて火災豫防や秋期檢閲の件等につき協議し後谷口に於て懇親會を催したと、因みに同日平消防組や火防組合にて町內一般に配布された火災豫防の宣傳ビラは左の如くである

火防宣傳

油斷大敵

◉火の氣があれば見る氣になれ

◉人は眠むれど火は眠むらぬ

◉大火の元もマッチ一本より

煙突、竈、煙草吸殼お互に注意致しませう

火事と見たら！消防へ

平消防組

事業と人物（三）
經營振りと發展の狀

四倉銀行專務
戸田兵藏氏

四ッ倉銀行專務取締役戸田兵藏氏は四ッ倉銀行創立以來最適任者として專務取締役に擧げられ氏は能く自家の責務を忘れず飽くまで銀行の發展に一身を捧げねばならぬと覺悟し爾來春雨秋風幾多の星霜を經過し行績は年々と隆昌を重ね來れるの時氏は益々自から戒しめ自からを勵まし彼岸の光明の日を胸に抱きつゝ步一步堅實に進んだのであるその勞むなしからず今や縣下同業銀行同樣に地方の信用を有する銀行となつたのである故に地方民は此の四ッ倉銀行が旭日昇天の勢を示して財界を乘り切る裏面には斯る犧牲的精神を發露せる戸田兵藏氏の努力に對して絶大の敬意を表せねばなるまい平町に出張所の外近々中に久ノ濱に出張所を設けて公衆の便宜をはかる事は決定したと尙ほ氏は消防組頭として重きをなして居る

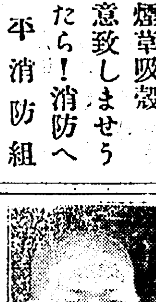
砂糖菓子問屋
吉田定太郎商店

平町會議員、吉田定太郎氏は新川町にて、砂糖メリケン粉其他雜貨を販賣する吉山屋商店の主人公である、地勢上から觀て重なる顧客を農村に有するからではあるまいが實に物堅い石橋を叩いて渡ると云ふ方の商法振りで信用が篤く品物を注意するので買ふのに安心で現金賣を標榜して居るから他より幾分安く買へる便利があるので客の絕間がないかく物堅い氏に見込まれて婿養子に迎へられた義男氏は大野村生れの磐中十六回卒業二八會員で明治商科出の商才豐な若いがしつかりした明晰な頭腦の持主、それでゐて至つて腰のひくい將來必ず仕事をする人との評判が高い切角正に伸びんとするも先づ屈す、辛棒と修養が肝心である此の點に於て申し分なきは吾人の心強ふする所である

吉田義男氏

實績顯らかなる
磐城建物會社

磐城建物株式會社は資本金五十萬圓平町五丁目に創立されたもので井上貞治郎氏が經營の衝に當つて居られ毎期可成りの配當をして着々と實績をあげてゆく事は決算報告書が明らかに物語つてゐる氏に深く不動樣を信仰してゐるので忙中閑を盜んでは講中を引連れて成田山へ參詣をする、その信心は氏の徳を高からしめ同時に御不動樣の庇護により同社は發展する益々膨脹する平町には移住者多く住宅をもつ上にどうしても建物會社の利用は必要な事でありほんとうの信仰をもつ經營者のある事は安心である養父井上茂作氏は現平消防組頭で大雄辯家を以て人に知られ尚熱心な稀れに見る讀書家である



井上貞治郎氏

新人を店主とする
關內藥局

關內藥局！平四丁目に間口の廣い明るい感じの堂々たる店構へ！

兎角藥屋さんは小じんまりした何となく陰氣なものであるが關內藥局は店內が廣く調劑室が見透しで主人が白衣姿で調劑する工合は氣持ちがよい、主人榮助氏は藥學校出の若いまだ書生氣のぬけない人ではあるが客をそらさぬ應對更らにたかぶらざる青年紳士で中堅人物として四邊から敬愛されてゐる飲む事は人後におちないが亂に終らず先づ酒豪の部であらう、それでゐて浮いた噂さもなく家庭は至極圓滿內に和樂は外に繁昌の基となる過般迄若年にして同區の衛生區長を無難に勤めた當りは將來何々の名譽職を贏ち得る事であらう

關內榮助氏

平消防組頭
井上茂作氏

手廣き取引
荒物商伊勢屋商店
若店主岩次氏の努力振り

平四丁目伊勢屋商店は荒物雜貨店で手廣い取引をして居るが主人唯次郎氏は伊勢屋の主人より、町會議員としてよりよく知られてゐる氏は豪商釜屋久太郎氏の令弟で流石に血統は爭はれない、氏の商略は實にあざやかであるが山氣がなく着實に進むあたり令兄によく似てゐる、平生はそうでないが一杯きこしめすと滔々懸河の辯舌即ち、酒の上の雄辯家となつて相手は辟易する然し論旨は整然としてあげ足をとられる樣な事のないのは老巧なもので町議で非難のないのも宜なる哉である、多事多端の今後の町會に氏に俟つ又大なりである、長子岩次氏は磐中出身にして着實熱心良く店頭に座して努力奮闘され町內中堅人物として重きをなしつゝある、屈伸の理の下に良く働く氏は感ずべき青年實業家である

堅實な商ひ振り
坂田金物店

平金物商の老舗に二丁目、坂田金物店がある、新式石造のお隣りの平銀に對しドッシリした古風な純日本式店舗が既に堅實な商法振りを示して居る主人藤助氏は町內に重きをなす極く眞面目な人であるが溫顏に笑みをたゝえ逢ふ人をして春風駘蕩の氣分に浸らせるのは氏の趣味が然らしめるのであらう、骨董趣味は我樂多宗であるが舊派俳句の宗匠章魚と號し近來の傑作がある「左記」斗酒尙辭せず年に似合はぬ酒豪で醉へばニコ／＼として名句口をついて出ると云ふ好々爺振りは到底血眼になつて利權漁り、金貯めに頭の白くなるのも知らぬ輩の眞似の出來得る藝當ではあるまい

時雨

網曳くや浮標に帆の寄る浦時雨

落葉

落葉たまる阿古の謫所や星明り

坂田藤助氏

荒物商大一屋
店主丹野榮三郎氏の人ご成り
絶大の信用を博す

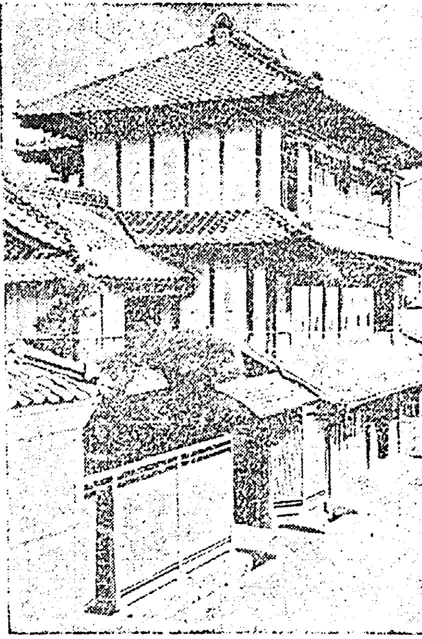
平町での荒物商と申せば大一屋を呼び起さしむそれ程地方に知られて居る、殊に平町で中堅をなす二丁目數多き同業の間に伍して多大の信用を博して居る、鼻紙一帖でも大一屋は安いとなつて居る、この推しも推されもせぬ大一屋として賣り出した當店主丹野榮三郎氏は實に曲つた事嫌いな正直眞面目な商人堅氣の紳士である、かつて名區長として多年町內の圓滿と協調に力を致して居られたが、目下町會議員に推されて市制準備を控えての平町政に直接參與されて堅實な町是に向つて努力されて居るすべての寄附にても丹野さしてなさず何事も大一屋根本としてなす又なして居つた、水道寄附金にても即金一千圓を率先して出した當り他の眞似し得ざる所である其處に丹野氏の犧牲的な人格の閃きがあり大一屋の今日をなし家庭の圓滿は引いて隆昌となつて居るのであらう

地方の大問屋
三井履物店

粹ないつも流行の魁をする履物を賣る店に平町二丁目三井ハキモノ店がある、履物は三井でなければとの人氣の焦點になり殊に花柳界には絶對の顧客のあるのは廣告や若旦那達の人柄がよいばかりではない、第一品物が粹でハキよいからであらう、主人常松氏は中々の子福者で子供の育つ樣に店の方もスク／＼と伸び獨り履物の名を恣にする樣になつた、江戸前の好みでも上方式でも御客樣の御需めに應じ、店に陳列されてるのをみるとオチヤツピイの雛妓でなくとも欲しくならざるを得ない、平町代表的のハキモノ店である老店舗である、若店主文吉氏は多年消防小頭としてつくされて居つたが今は店舖大事と第一線に立つて熱心な商ひ振りを示して居る、義太夫は別としてテニスはチヤンな相である

會席
谷口樓

平町第一流の旗亭は二丁目横川岸通り角の谷口樓であらう、如何なる大宴會にも又差向ひの淺酌低唱チン／＼モにも御好み次第お客樣に御不自由はかけないと云ふ家向ひ側の家を支店に藝妓置屋を兼ねて何時の御入來にも困らないと、旦那の仁太郎氏は水商賣料理屋の旦那らしくない溫厚そのものゝ紳士で永らく藝妓組合長をし曾ては町會に議席を有した程の人である圍棊はザルの域を脫した名手、又太の天狗樣であつたが近來は謠曲に凝つて夜分暇な時は御夫婦御揃ひで何々ニテ候……とうなつて居られる帳場は息『號鹿童』氏が預つて一切をきり廻し今では御隱居の身分である若旦那鹿童氏は琴古流尺八で名あり竹風會の指南として同好の士を養成して居る



谷口樓

植田方部聯合
靑年團總會
二十七日
於植田小學校

植田、山田、錦、勿來、川部、上遠野、田人、入遠野方部の聯合靑年團總會を明後二十七日午前九時より植田小學校に開催さるゝと協議事項講師等左の如くである

◆協議事項

一、町村青年團の組織を自治的に改むる件

二、來年度の本團總會に体育方面に加味する件

三、明年の御大典を記念すべき適當なる事業如何

四、補習學校生徒の就學出席の督勵及獎勵に關する適切なる方案なきや

◆講演

本縣社會教育主事　中曾根三郎

縣立岩瀨農學校長　富田文雄

農業科教員協議會

十一月廿八日午前九時　植田小學校

補習學校農業科教授につきて協議

[illegible]委員改選につきては本月二十五、六日頃開催する事とし電話の施設については小學校地擴張費や其他で經費尠きため延期する事となり否決されたと

植田小學校舊舍
板本氏の手に

植田町坂本龜太郎氏は植田小學校の舊校舍を一千六百圓にて買受け自家の醬油倉庫になす由である

丸龜の慶事

平町三丁目丸龜中野呉服店中野康平氏ツヤ子夫人は去る十六日午後三時長男を出產され產後母兒とも安態であると命名は安藤嘉信氏諸橋元三郎氏兩氏に依つて舜一郎さんである

西村屋藥舖
の御目出度

平町西村屋藥舖鈴木堅助氏次女トモ子サンは今回同町關內正一氏の媒酌により水戸市上市向井町油問屋吉田清左衛門氏と婚約相整ひ昨二十四日華燭の典を揚げ吉田家へ嫁入りされた

耐久三十年以上
電氣を絶緣し、强靭、輕量
低廉の朝日煙突

平町釜屋商店にて販賣しつゝある石綿セメント製朝日煙突は本紙廣告の通り、燒けず、錆びず、腐らずといふ加ふるに比較的安價で体裁も良く防火の設備充分であるとて賣行宜しく本紙廣告中楕圓形中に在る如き平六丁目羊羹屋綠川太次郎氏の既設した如くでその効如實に物語つて居る、同店係員は語る『在來の煙突は殆んど土管や、亞鉛引鐵板に限られて居つて値段は廉かつたが他に優秀なものが無かつた爲め多大の不便不經濟と危險とを忍んで使用されて居つたのです、然しこの朝日煙突の出現に依つてこの不安は一掃され經濟的實用品として活用されつゝあります、同煙突の原料とか製造方法は兎に角その特徴として、◆電氣を絶緣致し◆强靭無比◆輕量◆完全な耐火材料であり◆保溫の優越◆耐久三十年以上であります價格や取付方法等については說明書を添ひ御問ひに應じます』云々

玉川村會

玉川村々會は去る十九日開催されたが收入役後任者につき諮る事となり現書記小泉一郎氏を推す事になつた因みに齋藤前收入役は病氣のため辭任せし事は既報の

眞立漫談

▲福民の山田磐廣氏はビール持參で拙宿に遊びに來られるさかオッシヤッタ此の人ヨクヒヤカシを言ひたがる人である何人も祭りだが人が氣にかけ樣がかけまいが放言皮肉する人があるそれで御自分は大に氣にする

▲平町通市街の各軒の孫ヒサシが絶排されて大分市街美のため良くなつたと思ひきや四丁目南側の某商店は孫ヒサシを出した樣である其筋では即刻取除かすべきである

▲林家『田町』の女將野崎きむさんから本紙配達の御斷りがハガキを以つてなされた事は前號本紙上に掲載の如くである當分にあらず永久に配達せまい然し南町野崎喜八郎氏は何も知らんと申して居るきむさんたるもの勝手な事をする人であるワイ縣議のオクさんになつたら夫君の体面を落さぬ樣縣議夫人らしく夫君に藝妓を十二時過ぎ起し等させぬ事にするものですねきむさんの勢力範圍の本紙をミンナ斷る通知をくれては呵々